Q「緑の流域治水」だから環境にやさしい！？

A 「緑の」とは名ばかり。中身は従来通りのダム中心の治水対策

- 田んぼダムなども実験的に採用される対策もあるが、実効性が充分に確立されておらず、治水対策のほんの一部
- 遊水地は合意形成の途中段階
- 流域の荒廃した森林の保全に取り組んでいるわけではなく、「緑の～」と言える根拠は実は何ひとつない
- 「穴あきダムは環境に優しい」かのような印象を与えるための偽の説明。

Q ダム緊急放流はちゃんと管理されてるから安全！？

A ダム緊急放流は管理が難しく、下流の命を奪いかねない危険なもの

- 想定以上の雨が降ると、ダムは緊急放流をおこなう。下流が氾濫していてもおかまいなし。一気に大量の水が放流されることで、下流では逃げ遅れの危険が高まる
- 愛媛県肱川ではダム緊急放流で命を落としたとして、裁判が係争中
- 球磨川豪雨災害では、人吉や球磨村が氾濫している中で、市房ダム緊急放流が発表され、水から避難中の人びとを震撼させた
- 県は「上流から流れ込む量と同じ量しか下流に流さないから安全」と説明してきたが、2022年9月台風の際にはコントロール不能になり、流入量以上の水を放流し、真夜中に下流を危険な状態にした
- 市房・川辺川の2つのダム緊急放流が同時におこなわれば下流は危険な状態になる

球磨川は県民の宝

熊本県南部を流れる一級河川、球磨川。流域面積85%を森林が占め、12万人の人びとが豊かな自然の恵みとともに暮らしてきました。30cmを超える「尺鮎」、温泉、ラフティングや川下り、球磨焼酎、三十三観音、相良藩600年の歴史と文化、そして18年連続水質日本一を誇る川辺川。球磨川は熊本県民の誇りであり宝物です。
地元住民の声や世論を無視し、多くの人に誤った情報だけを伝えたまま、急ぎ足で進む穴あきの川辺川ダム。このままダムができれば、この宝物は永遠に失われます。

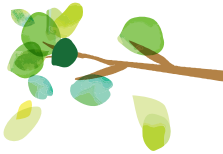
**立ち止まって
いっしょに考えてみませんか**

発行：「川辺川ダムってどうなっているの？」を学ぼう会
〒862-0950 熊本市中央区水前寺3丁目2-14-302

知ることから始めよう

穴あき 川辺川ダム 問題

7 誤解されがちな つのウソ・ホント



「川辺川ダムってどうなっているの？」を学ぼう会

着々と進む流水型ダム。…でもちょっと待って。国や県の言っていることってホントなのかなぁ？

2020年7月4日、県南を流れる球磨川流域で記録的豪雨が発生。氾濫と土砂災害により流域に大きな被害をもたらしました。その数カ月後には、2009年に一度中止された川辺川ダムが流水型（穴あき）ダムとして復活。災害の検証や住民参加もそこそこに、現在急ピッチで計画が進んでいます。

国や県が一生懸命にダムの必要性を広報しているけど…あれれ？
なんだかよく分からない点も多いみたい。
私たちといっしょに考えてみよう！

Q 川辺川ダムを中止したから洪水が起きてしまった！？

A いいえ、川辺川ダムがあってもなくても洪水は起きた

●ダムが一度白紙になって以降、国や県は「ダムによらない治水」のための抜本的対策を行わず、球磨川水系の治水対策を放置。川辺川ダムを前提とした治水対策がそのまま放置された
●気候変動と温暖化の影響で、かつてなかったような記録的豪雨が毎年各地で発生している。線状降水帯の発生は気象庁でも予想できず、2020年の豪雨災害も国交省の想定以上の雨が降
●ダムのある川でも近年氾濫が相次いでおり、ダム治水は限界を迎えている

Q ダムがあれば犠牲者は出なかった！？

A 傷ましい犠牲者50名の多くはダムがあっても救えなかった

●専門家と市民による調査では、球磨川豪雨災害の犠牲者50名のうち、「仮に川辺川ダムがあったとしたら救われたかもしれない」と疑われるケースは2名のみ
●川辺川ダムがもしも作られていたとしても、効果は限定的で。しかも国の想定する降雨パターンの時にしか効果を発揮しない本流の水位を多少下げることはあっても、今回のような支流の氾濫は防げない

Q 穴あきダムは環境にやさしいから問題ない！？

A すでに完成した穴あきダムでは深刻な環境悪化が進んでいる

●穴あきダムは日本でも事例が少なく、川辺川ダムのような巨大な穴あきダムは全国どこにも存在しない。「環境にやさしい」根拠は一切ない
●すでに完成した穴あきダムのほとんどは環境アセスすらやっていない
●穴あきでも、自然の流れを阻害するものが川の真ん中に作れば、水質悪化や土砂堆積、生態系激変は必至
●環境アセスメント手続きは形だけ。環境影響をまったく防げない

Q「ダムか安心安全」どちらか1つしか選べない！？

A ダム頼みの治水こそ危険。大事なのは自分で備え命を守ること

●温暖化や荒廃した山林の影響により今や国の想定を超える豪雨が相次いでいるが、国の対策は従来通りダム中心
●ダムは万能ではなく、効果を発揮するのは特定の降雨パターンの時だけ。ダムがあれば安心安全な暮らしが約束されるわけではなく、ダム頼みで、ダム治水効果を過信することは危険
●重要なのは、もしもの時に命を守ること。ダムはその答えにはならない

Q 国や県は住民の声を聞いてダム復活を決めた！？

A 国や県は当初から「結論ありき」。住民参加、住民説明もなく決定

●豪雨災害直後から県知事は川辺川ダム復活を示唆。災害検証をわずか2回の委員会で終了し、災害から4ヶ月後には川辺川ダム復活を決定した
●蒲島郁夫県知事は、決断の前に60回に渡り住民の声を聞いたと言うが、その中身は「行政によって指名された地域団体の代表者」のヒアリング。その参加者からも、ダム反対の声が相次いだが無視してきた
●ダムを含む球磨川水系河川整備計画に寄せられた意見のうち、7割がダム反対だったが一切反映されず